

平成22年4月15日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520063

研究課題名（和文） インド仏教衰亡に関する基礎的研究

研究課題名（英文） a basic study on decline of Indian Buddhism

研究代表者

保坂 俊司（HOSAKA SHUNNJI）

中央大学・総合政策学部・教授

研究者番号：80245274

研究代表者の専門分野：インド宗教思想・神秘哲学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：インド仏教の衰亡、イスラム資料、末期仏教、比較文明学、仏教の再復興
玄奘三蔵研究、中国社会科学院

1. 研究計画の概要

従来研究されることの少なかったインド仏教衰亡に関する基礎的研究を、イスラム資料を用いて文献学的に考察するとともに、他宗教あるいは他地域の仏教の盛衰を比較しつつ、インド仏教の衰亡原因を明らかにする。また、玄奘三蔵研究に新しい光を当てる研究が可能となった。

2. 研究の進捗状況

パキスタンの現地調査が政情不安のために実行できていない以外は、当初の研究計画で予想された以上の成果と反響が国内外から得られた。

特に、中国・韓国・マレーシアなどの研究者との連携研究が実現でき、今後の仏教の盛衰研究への大きな一歩を踏み出した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

全体としては、予想以上の成果を得た。本テーマの研究は、予想以上に外国の研究者から注目され、研究の成果についての発表や普及は計画段階では予想できない反響を得た。特に、中国社会科学院の黄心川教授はじめ孫晶教授との交流により玄奘三蔵研究にも新しい方向性が開け、また新たに中国社会科学院研究員（非常勤）に就任し、今後も共同研

究を続けることとなった。また国際会議においても同テーマでの発表や討論会開催の機会が持てた。

遅れている部分は、パキスタンの現地調査である。この点は、政情不安のために実行できていない。今後の課題となりつつある。

4. 今後の研究の推進方策

研究成果の積極的な発表を心がける。2010年6月には、台湾において研究発表を行う予定。また論文や著作で成果を発表する。またインドやバングラデシュにおける現地調査も行い、さらなる研究の深化に結び付けたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1件）

①保坂俊司、インドにおける宗教と倫理、宗教学研究、査読あり、313巻、2009年、313-337頁

〔学会発表〕（計 1件）

①保坂俊司、インド仏教と日本仏教の世俗思想、第3回居士仏教国際大会、2009年12月18-22日、マレーシア

〔図書〕（計 2件）

①保坂俊司『癒しと鎮めと日本の宗教』、北樹出版社、2009、209頁

②保坂俊司、インドにおける仏教の衰亡、山川出版社、小谷汪之編著「南アジア史」、2007年、515頁（96-111頁）

〔その他〕韓国仏教系新聞『法宝』2010年3月17日版19面全面において「インド仏教衰亡研究」の翻訳への疑問に対するインタビュー記事を掲載していただいた。その際、今回のプロジェクトの研究成果を多用した。